

大阪府立中之島図書館

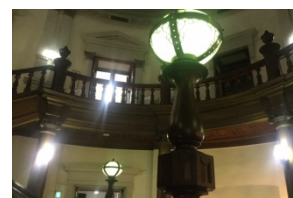
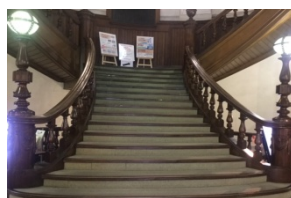
大阪府立中之島図書館に行くと、いつも建物の美しさと風格に心がときめく。建物の外観はもちろんのこと、正面玄関と中央ホールにも味わいを感じる。『中之島百年—大阪府立図書館のあゆみ』2004年から、中之島図書館を紹介したい。

古代ローマの神殿のような威厳を放つ本館は、大阪の近代建築史を彩る歴史的建造物として国の重要文化財に指定されている。この建物は戦火にも免れ、阪神・淡路震大震災時にも被害が少なかった。玄関ポーチの4本のコリント式石柱、ドーム状の中央ホールが、いまなお数多くの利用者を迎える。大阪府立中之島図書館は1904(明治37)年、住友家第15代当主・住友吉左衛門友純氏から建物、図書購入基金の寄贈を受け、この中之島に開設された。



「図書館創設考案」(住友史料「大阪図書館ニ関スル書類」から)

- 一 住友家は金拾五萬円を出し大阪市に一箇の図書館を建設すべし
- 二 住友家は前項の外、創立図書購買費として金五萬円を寄付すべし
- 三 住友家は図書購買基金として更に金五萬円を寄付すべし



図書館は之より生ずる利子を以て年年図書を購入すべし

- 四 大阪市は第一項建設敷地として少くも三千坪を供し永久図書館用地に充つべし



建物の設計を担当したのは野口孫市で、技師長を務めたが、当時30歳でまだ青年であった。野口が設計し、今に残る図書館の建物の外見は、「石造3階建、中央に大きく張り出した。高い基壇の上に4本のコリント式石柱がポーチを高く支える。3階まで吹抜いた中央ホールを覆う青銅の大きな丸屋根と十字形に広げた両翼。規矩整然として古代神殿として古代神殿にも似た端正な姿と気品をたたえて、数少ない明治の様式建築の美を今もとどめる」。写真下は建設中の大阪図書館(明治34年ごろ)。コリント式の石柱が見える。正面玄関あたりだろう。こうして足場を組んでいる建設現場を見ると、当時の作業がいかに大変だったかが分かる。



大阪府立中之島図書館に行くと、建設当時の大阪経済人の心意気、歴史と文化をこよなく愛する気持ちが伝わってくる。それに比べ、現在の大阪は「維新政治」が続くなかで、歴史と文化、教育を軽視する風潮が広まっている。

「大阪人」の一人として、大阪らしさを取り戻すために奮闘努力していきたい。

(2018年8月14日)